

令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	登米市立加賀野小学校	主な取組教科	国語科・算数科	
研 究 主 題	課題解決の楽しさを実感し 主体的に学び続ける児童の育成 —「課題設定」「高め合い」「振り返り」を効果的に位置付けた授業づくりを通して—		研究年次	3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
課題設定の工夫を通じた授業づくり	適切な課題設定ができ、児童や指導者の学びの指針となり学習への意欲につながった。	「意欲的に学習している」と肯定的に回答した児童は国語科・算数科ともに5%上昇した。
高め合いの工夫を通じた授業づくり	児童から複数の考えを引き出し、立場を明確にした話し合いができるようになった。	「友達の考えが役立っている」と肯定的に回答した児童は90%以上であった。
振り返りの工夫を通じた授業づくり	「ノート貯金」の時間を設けなくても、ノートにメモをする習慣が身に付いた。	「ノートが学習に役立っている」と肯定的に回答した児童は約90%であった。
模擬授業形式での事前検討会の充実	教科部で検討会を行い、改善したものをさらに全員で検討したことで発問や板書が精選された。	ノートの記述から、指導者の問い掛けに対してよく考えていた様子がうかがえた。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
国語科では、学習の途中に新たな課題が出てくることがあったが、その十分な活用には至らなかった。	教材研究、実践を通して、新たな課題のいかし方について考慮し、授業づくりに取り組んでいく。
振り返りの観点を提示するだけにとどまらず、なぜそれらの観点を振り返るとよいのかという意義を伝え、意識して書かせるまで至らなかった。	振り返りの観点にはどのような違いがあって、なぜ振り返るとよいのかという意義を児童と考え、意識して書けるように取り組んでいく。